

この人に会いました

今回は、湯沢町消防団総動406名中の最高齢者・高橋宣雄さんと唯一の女性団員・桑原路子さんにお会いしました。

高橋宣雄さん

60歳10ヶ月（三俣2区在住）  
湯沢町消防団副団長



・あなたにとって「消防団員」とはどんなものですか？

22歳で三俣に戻ってきてすぐ入団しました。近年は4月から6月初めにかけての日曜日はほとんど消防団関係の仕事にとらわれていますが、今では慣れてしまっていて、そういうものだと思っています。

私と同年代の人はみんな卒業してしまっていて、なにか置いていかれたような気分ですね。昔は30年務めるか、俸が入るか、50歳になるかすれば辞められたんだけど、いまはそうもいけなくなっています。

私も分団長の任期が終わったし俸も入団したので辞めようと思った時に、団本部に空きが出たので就任してほしいという話があって、それを受けたわけです。1期（2年）くらいで辞められるかと思っていただけで、いつの間にか4期も勤めてしまっています。好きだからやっ

けると言う人もいるけれど、はじめに一生懸命やっていると自然に役員がまわってくるのは仕方がないことですね。

消防団員だということは四六時中意識しています。分団長以上になると無難の受信機を持たされるわけだけど、これはいつも枕元に置いて寝るし、どこへ行くにも持って行きます。

この三俣では団員が少ない上に、昼間ここに残る団員はさらに少ないので、いざという時には団員でなくても消火栓と消化器の操作できるようにと、私が三俣の分団長の時から春の消防演習の際、団員以外の女衆などに初期消火訓練を始めて、今も続いています。

・若い団員に一言！

いざ災害という時には、地域のため町民のために働くということ、今は、今の若い人も消防団員である以上そういう意識はみんなが持っているので、うれいことですね。中継地震の時には全員が住民の安全確認のために動き出していましたからね。これから地域住民のためによろしくお願いします。

最近はこの分団も入団者が減少し、欠員が出ているのが気掛かりです。団員は当然使命感、責任感を持っていますから、欠

員があることが分かりながら辞めるといふわけにはいかなかっため、自然と全体が高齢化しています。積極的に若い人たちに入団してもらいたいですね。

桑原路子さん

唯一の女性団員（西中在住）



この秋の消防演習の新入団員辞令交付で、ただ一人、女性の団員が紹介されていました。男社会と思われていた消防団に、女性がただ一人入ってくるといふ勇気に新鮮な感動を見たものでした。

・入団しようと思っただけは？

あんまり深く考えて決断したというわけではないんです。ただ、人の役に立つという事は嬉しいことだと思っし、地域の人が触れ合いながら活動できることはとてもいいことだとは思っています。それに、今の仕事に、救急法など何か生かせるものがあればいいなとも思っています。

父は、女一人なわけですから、大丈夫かと心配したようですし、

祖父も祖母も反対でした。友達にも止められましたね。でも、母親だけは応援してくれたんですよ。

・実際に入団してからは？

不安はもちろんありましたが、歓迎していただいています。入団する以前から団活動の話をして頂いたり歓迎して頂いたから、踏み切れました。すごく感謝しています。

男性と一緒だから体力的にはかなわないし、実際に出動になったらやれるか不安はありますけど、これからの訓練でやっつけていけるようになりたいです。訓練では、入ったばかりなので色々なことをさせてもらっていて、大変ですけどありがたいですね。

消防団は男性の仕事というイメージですが、佐渡などの漁村には女性の団員もたくさんいるそうだし、女だからやれないということはないと思います。

・今後の抱負は？

消防団は男だけの仕事ではなく、女の方も入ってみようかなという雰囲気になればいいですね。私自身もこれから訓練を重ねて、実際の現場で役にたたらいいなと思っています。よろしくお願いします。

担当 佐藤 守正

南雲 和夫

「絆（きずな）」

全国のスキーシーズンに先駆け、中里スキー場へ雪を運んで中里まつりが10月9日に開催された。フィッシングパークから会場を移すことでの勇氣と不安が交錯する中、さらに追い打ちをかけるかのように前日から雨が降り続き、その確率はより高くなっていった。

ところが、午前10時を過ぎると雨が上がり、会場に来る人、人で4千人を超えるかの大盛況となった。笑い声の絶えない気持ちのいい一日へと変わった。

役員と多くのスタッフ、来場された大勢のお客様に、ささえささえと感謝の意を込めてお礼の言葉を述べた。一人一人の持つ意味の大切さを改めて確認するイベントとなった。

11月27日には町長選挙が行われる。「政治は人なり」とも言われます。

皆で町の代表を選ぶ大切な選挙です。自律して自立できる町となるよう皆で将来を語り合い、信頼し合える町づくりの未来へ繋がる選挙であってほしいと願っています。

南雲 和夫 広報委員

編集

湯沢町議会  
広報対策特別委員会